令和6年度宮城県田んぼダム・アグリテックシンポジウムが開催されました

10月25日、加美町の中新田文化会館(中新田バッハホール)で、「令和6年度宮城県田んぼダム・アグリテックシンポジウム～普段は田んぼ、時々ダム。～」が開催されました。

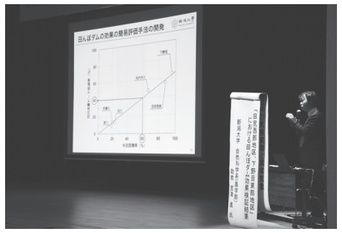
このシンポジウムは、宮城県や大崎市を含む関係市町村、土地改良区、農業者組織で構成される「宮城県田んぼダム実証コンソーシアム」が主催し、今年度で3回目となります。

近年、大崎地域は、度重なる豪雨災害により、河川の堤防越水や住宅地への浸水など、甚大な被害を受けました。流域治水による対策が求められる中、有効な手段として「田んぼダム」が提唱されています。

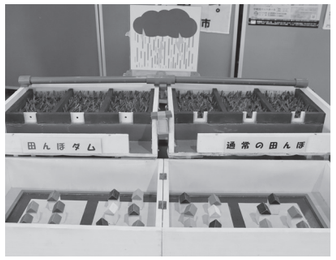
田んぼダムとは、水田に降った雨を一時的に貯留させ、地域や下流域の浸水被害リスクを低減させる取り組みです。市内の田んぼダムの取り組み面積は、令和5年度時点で953ヘクタールとなっています。

シンポジウムでは、国や県、大学の講師による、近年の気候変動の状況や田んぼダムの取り組み事例などの講演がありました。

参加者は、田んぼダムの取り組みの内容や効果について、理解を深めていました。



▲本市における効果検証結果を講演した新潟大学農学部農学科助教 宮津(みやづ) 進(すすむ) 氏



▲田んぼダムの模型(宮城県製作)

「南原穴堰(みなみはらあなぜき)」世界かんがい施設遺産認定登録記念シンポジウムを開催しました

11月8日、鳴子温泉地域南原地区の「南原穴堰」が9月3日に「世界かんがい施設遺産」に認定・登録されたことを記念して、「南原穴堰」世界かんがい施設遺産認定登録記念シンポジウムを開催しました。シンポジウムには、関係者や市内中学校の生徒など、約200人が参加しました。

基調講演では、国際かんがい排水委員会(ICID)名誉副会長・国内委員会委員長の渡邉 紹裕(つぎひろ) 氏が講師を務めました。約380年前に造られ、地域の生活を支えてきた南原穴堰の意義や価値などを再認識しました。

▲「南原穴堰に見る〈水土の知〉～“あ、なぜかあなぜき”」と題し講演した渡邉 紹裕 氏

パネルディスカッションでは、農ジャーナリストの小谷(こたに) あゆみ 氏をコーディネーターに迎え、南原穴堰水利組合長の上野 孝作 氏をはじめとする5人のパネリストと共に、今後の情報発信やツーリズムへの活用について討論しました。次世代につなぐため、都市との交流や体験型の取り組みの必要性などの考えが述べられました。

市では、先人たちから受け継がれてきた、生きた遺産「南原穴堰」の持続的な保全・管理に向け、関係団体などと協力しながら、さまざまな活動に取り組んでいきます。

▲持続的な保全や活用策についてパネルディスカッションが行われました

おおさき古川秋まつりが開催されました

10月20日、古川地域中心市街地で、「おおさき古川秋まつり」が晴天のもと開催されました。

商店街の通りでは、「稲葉先陣大名行列」が練り歩き、江戸の風情を感じさせる歴史絵巻さながらの迫力で、見物客を魅了しました。

JR古川駅前やリオーネふるかわ駐車場で開催された「はたらくくるま大集合」では、多くの親子が乗車体験などを楽しみました。

市役所本庁舎駐車場と本庁舎1階市民交流エリア屋内広場(パタ崎さん家(ち))で開催された「おおさき元氣祭」では、会場が熱気に包まれ、飲食ブースでは、秋の味覚やパン、スイーツなどの店に多くの列ができました。

また、今回初めて、大崎市のブランド米『ささ結』を使用したおにぎりのグランプリを決める「O(オーワン)-1グランプリ」が開催され、10店舗のエントリーから見事、古川地域の「炉ばた焼せのび」の創作おにぎりが初代チャンピオンに輝きました。会場内では、おいしいおにぎりをほおばる姿が多く見られました。

▲『ささ結』のおにぎりでおいしさを競いました

「～『ささ結』生誕10周年～新米まつり2024」が開催されました

10月13日に道の駅おおさきで「～『ささ結』生誕10周年～新米まつり2024」が開催され、新米『ささ結』の販売を開始しました。

会場では、『ささ結』のほか、仙台牛や伝統野菜「上伊場野芋(かみいばのいも)」などの秋野菜が販売されました。開会前から長蛇の列ができ、10年目の実りの秋を迎えた『ささ結』を買い求める来場者でにぎわいました。特別抽選企画では、『ささ結』生誕10周年記念グッズや関連商品などがプレゼントされました。

また、「MIKA(ミカ) BAND(バンド)」によるジャズライブでは、『ささ結』のイメージソング「feel(フィール) it(イット)!『ささ結』」を含む多数の楽曲が披露されました。

秋晴れの下、ジャズの演奏を楽しみながら、「大崎耕土」の収穫を喜ぶ祭りとなりました。

▲新米『ささ結』を買い求める来場者

道でつなぐ・東北どまんなかサミット2024～日本海と太平洋をつなぐ～in新庄市

10月20日、山形県新庄市エコロジーガーデンを会場に「道でつなぐ・東北どまんなかサミット2024 ～日本海と太平洋をつなぐ～in新庄市」が開催されました。このサミットは、県境を超えた7自治体(大崎市、秋田県由利本荘市・湯沢市、山形県真室川町(まむろがわまち)・金山町(かねやままち)・新庄市・最上町)が日本海から太平洋までをつなぐ縦軸・横軸の道路網ネットワークによる「人・もの・こころ」の交流を目的として開催されています。当日は、東北地方整備局道路部長の木村 康博 氏による基調講演のほか、構成自治体の首長による意見交換が行われ、今後期待される連携のあり方などについて意見が交わされました。

また、各自治体の特産品を販売するコーナーが設けられ、物産展を通した交流も行われました。

今後も、連携のあり方を模索し、道路整備の促進、産業や観光の交流に取り組んでいきます。

▲「東北のみちづくりと広がる可能性」と題し講演した木村 康博 氏